

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000286		
法人名	株式会社コミュニティハウス・夢		
事業所名	グループホームみんなの家・福ちゃん		
所在地	東大阪市六万寺町1丁目14-20		
自己評価作成日	平成29年6月1日	評価結果市町村受理日	平成29年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年6月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの共通理念「人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続ける事」を掲げ共に生きる姿勢を大切にしています。そのことを踏まえ、私たちに出来ることは何か？それは困った時に相談できる、暮らしを支え合う関係を、地域住民の方々と一緒にネットワークを構築していくことであり、それをグループホームの運営を通じて行っていきたくと思っています。みんなの家・福ちゃんでは共に支え合い、最後までその人らしさを失わないように過ごして頂きたいとの思いで笑いの絶えない賑やかなグループホームを創っていきます。福ちゃんが大切にしている事①一日一回は大笑いする事。楽しみや喜びを共有する大きな家族になること。②プログラムの無い自然な暮らし。③一人一人の思い、やりたいこと、個人のリズムを尊重する事。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所には、法人の理念の他に、日々の目標として「一日一笑」がある。事業所の職員は、笑いの絶えない施設にすべく、一丸となって頑張っている。リゾートホテルのロビーのような、明るく高い天井のリビングルームに、笑い声が響きわたっている。  
その一日一笑も、基本理念にある「常に利用者の立場に立ったサービスの提供」が基となっている。「自分ならどうして欲しいか」また、して欲しくないことを自問自答している。ここでは、徹底した当たり前の生活を実行している。毎日の食事のメニューを、冷蔵庫を開けて考えることが多いという、不足分を利用者と共に買い出しに行くようにしている。長年認知症ケアにかかわって来られた代表者の介護へのあつい思いがある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の共通理念である『人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること』と、共に生きるという姿勢を大切に、その思いを共有することで、より良い介護を実践できるように努めている。	法人の理念の他に、日々の目標として「笑う」ということを掲げている。リビングには、「笑う門には福来る」の書をはじめ、利用者の笑顔の写真がところ狭しと貼りめぐらされ、利用者との職員の笑い声が響き渡っている。理念の共有が肌で感じ取れる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	約5年が経過し地域の方にも施設が存在が浸透し、季節行事等、開催日の問合せを頂けるようになった。逆に地域の祭りに参加したり、回覧板を入居者が届ける等を通し交流を図っている。	自治会に加入して地域の行事に参加したり、散歩や買い物等で近隣の方々と挨拶をするなど、日常的に交流している。散歩途上で、釣り堀で鮎釣りをしている近隣の人と話したり、藪で作業をしている住民に笛を頂いたこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌等認知症ケアの話題を発信している。また地域包括の関係者との交流の中で支援方法を学んでいる。今年度から高齢者支援等会議のメンバーとして市全体での高齢者の課題に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行い取り組みやサービスの状況を報告し会議の中でご家族や利用者、その他の出席者の意見やアドバイスをサービスの向上に生かす努力をしている。	利用者及び家族、自治会役員、地域包括職員、社協職員、老人センター、事業所職員等で構成、隔月に開催している。会議では事業所からの報告だけでなく、座位の改善、認知症カフェの提案等、話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会へは毎回出席し、十分な連携を図り協力関係を構築し、その度に相談を行っています。	法人代表者が事業者連絡会の役員をされ、市役所窓口のパイプ役を務めている。その他、管理者は都度、事業所の取り組みを伝えるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時に拘束をしないケアを説明し自分がされて嫌なことはしないと意識し常に拘束に繋がらない介護について話し合い取り組んでいる。また玄関は施錠せず扉にセンサーを設置し、外出希望された時は職員が同行している。	管理者および職員は身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を充分理解し、言葉による拘束も合わせて研修会を行いながら拘束のないケアの実践に努めている。玄関も施錠せず、自由に出入り出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議で虐待防止の徹底を図り、施設内外の研修にも積極的に参加をし意識の向上を図っている。日々のケアの中でも職員間の意見交換を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部研修・外部研修で権利擁護に関する制度の理解を深める努力を行っています。社会福祉協議会との連携により一の方の活用につながっています。今後も連携を図り活用出来るように支援していきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点が残らないように重要事項説明書及び契約内容について十分に説明、話し合いを行いご理解、納得の上で契約をして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、個々の利用者の想いを汲み取り対応できるように努めている。玄関に意見箱を設置し書面にて苦情相談を受け付けていることを明記している。また意見や要望があれば運営推進会議などでも話し合い、面接時にその都度話をお聞きし、意見もお聞きするよう努めている。	利用者や家族等とは、日頃の会話や様子の中から、また、運営推進会議の中から、認知症カフェに関する提案、リハビリの要望、行事に関すること等意見・要望等を聞き出し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議では職員全員出席とし率直な意見を交換できる機会を設けて意見の反映に努めている。オムツに関しては伝達研修やメーカーによる研修を行い職員が意見を出し合い選んだものを使用している。	月に一回、全体会議を行い、シフトや接遇、入浴支援に関することなど、運営に関する職員の意見を聞く機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1ユニット9名ですが日中は4人体制でゆとりを持って仕事しやすい環境を整えています。給与面では資格手当、能力に応じた算定を行い働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々に合った研修の機会を確保し費用は会社が負担している。外部研修を受講した職員は伝達研修をし情報を共有し、月1回の会議等で折に触れ個々にケアの仕方を指導・助言するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の行う事業者部会や全国セミナー等を通し他の事業所との交流を図る機会を設けサービスの向上に取り組んでいる。また法人内の研修や外部の方に講演をして頂きグループホームでの活動の中で改善に向けた検討も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず現状の施設見学をして頂き事前相談や契約の段階で本人の想い、不安、要望等を十分お聞きし安心して頂けるサービスの提供がより良い信頼関係に繋がると思い日々努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮しながら、ご家族の思いをよく聞かせて頂き不安を解消できるサービスの提供を行いより良い関係、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の機関や介護支援相談員の方々との連絡、調整を図りながらご家族、ご本人のニーズに合った対応を心掛けている。また初期のサービスにおいて本人が早く馴染み、納得されるよう職員間で連携を取り支援を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに支援する、されるの関係ではなく、共に生きる姿勢を持ちながら普通の生活を続けていけるような支援関係を築くよう努めている。また利用者間で話し合いながら自主的に家事をこなして下さる雰囲気もできています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事もホームの職員だけの判断ではなく、毎日の生活の些細なこともご家族に伝え同じ思いを常に持ちご家族との絆を深める努力を惜まず共に支え合っている者同士としてより良い関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活や家族関係に配慮しつつ面会・外出・外泊等気軽に出来るよう支援している。面会は昼夜問わず可能であることを伝えているため都合の良い時に自由に来て頂いている。また施設の行事を文書にしてお知らせし参加をして頂いている。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、友人や馴染みの場所喫茶店や美容院などへの訪問を、家族の協力を得ながら支援している。身寄りの無い利用者には事業所の職員が支援する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格や感情の変化を理解しより良い関係を生活の中で築いて頂けるように努めている。関わりを持つ事が苦手な方に対しては職員が間に入ることにより孤立を防ぎ、利用者同士が自然に関り支え合える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方々のご家族様にも会報誌をお送りしたり推進会議に参加して頂き互いの近況を報告し合っている。貴重な意見が伺える事も出来ているため今後も関係が続いていくよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、言葉、表情等を記録に残しその方の思いや意向を把握できるように努めている。生活歴、出来ること・出来ないことシート、アセスメントからも把握に努めている。把握困難な場合は職員やご家族で話し合っており取り組んでいる。	利用者本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中で生活歴を参考にしながら、誕生日の食事の希望や趣味等を聞き出し、出来るだけ意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限りご本人・ご家族・関係者の方々よりお聞きし情報収集を行っている。また日々の生活や会話の中から聞き取り把握に努める一方、ご家族の協力で生活歴を作り個々の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の現状の出来ること・出来ないことを把握しご家族・本人からも要望を聞き個々の生活リズムを把握し本人に合った生活を提供出来るよう努めている。月1回の会議でも職員間で状況を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるために日々の生活の中で家族には来訪時または電話で思いを確認し必要に応じ主治医・看護師等にも協力を頂き意見を反映した介護計画を作成するよう努めている。	介護計画の期間は一応長期計画を12ヶ月、短期を6ヶ月としているが、本人や家族の意見や要望があった時や変化が起きた時には、その都度担当者会議で支援経過をもとに話し合い、臨機応変に介護計画の見直しをするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所時には初期観察記録を記載、申し送りや連絡ノートを活用し個々の情報を共有している。気づきや工夫等を個別記録に残し常に職員間で共有し会議等で話し合い現状のニーズに則した介護計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに合わせた対応をしている。月1回の外出、散歩や買い物に出掛けるなど柔軟な対応をしている。家族のお泊り、食事も可能。初めての看取りの際は最期の夜に泊まれ職員と共に看取って頂くことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の催事にはお世話になっている関係者や地域の方々等も参加。地域の秋祭りには青年団の呼掛けで施設前まで太鼓台が来て交流も出来ている。包括や老人センター主催の手芸教室へも職員同伴で参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の主治医の受診も可能だが、当施設では協力医療機関に月2回の往診、24時間連携医療体制を図り些細な変化も直ぐに報告し情報共有している。他の医療機関へは担当医にて直近の情報提供書を渡し家族の付き添いで受診、不可能なら職員が同行している。	利用者本人や家族等が希望するかかりつけ医としている。現在、内科は事業所の協力医療機関が、全員のかかりつけ医となっている。歯科、眼科等の診療については、基本的には家族等が同行受診するようになっているが、不可能なときには職員が同行するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が出勤し日々の心身の状態や情報、気づき等を伝え指示を受け、個々の記録を残し情報を共有している。緊急時は24時間体制で対応し主治医との連携を迅速かつ適切に図り受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要な情報提供に努め経過報告・確認を行っている。退院時は現状と今後の注意点等の把握に努め、家族とも密な情報交換を行い円滑な支援が行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を考慮し「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成。支援方法共有のため担当医・看護師・家族・職員で会議を行い交換ノートにて情報共有している。施設でのケアの範囲を確認し合い家族同意のもとチームケアを行っている。	重度化や終末期に向けた指針を作成し、契約時に本人、家族に説明し同意を得ている。看護師は非常勤ではあるが2名いて、24時間オンコール体制は整っている。看取りは今まで2例あり、遺族との交流は続いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い実践力を身に付けるよう努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練で内1回は消防署指導で火災発生時の対応、通報の仕方や避難訓練を実施し近隣住民も参加。他、防災設備会社による消火訓練、設備点検も実施。万一に備え防災グッズや非常食を地下に常備している。	災害時における避難訓練や消防訓練を利用者、近隣住民と共に年に2回消防署、防災設備会社指導のもと行っている。災害に備えた備蓄品も整っている。しかし、夜間を想定しての避難訓練は少し不十分である。	夜間を想定した避難訓練で職員が安全な場所まで誘導した後の見守りを、地域の方をお願いするなどして、地域との連携体制が整うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議等で個々の事例で検討し合い誇りやプライバシー確保について具体的に確認している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応でトイレ介助や入浴介助が行われている。介護計画など個人情報も介護ステーションの書庫に厳重に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で意思疎通が困難な方でも思いや希望が表出できるように声掛け、働き掛けを行い表情等で思いを感じ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	プログラムは用意せず職員が利用者の気持ちや希望を把握し個々のペースで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方にはある程度提示した中で選んで頂いている。ヘアカット時は返答が可能な方には訪問美容師がどの位切るのか伺い本人の希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や祝い事は個々に好物を聞きメニューに取り入れている。鍋、お好み焼き等作る過程から楽しんで頂いている。職員と料理・盛り付け・食器洗い等もして頂いている。食器は配慮しつつ陶器・ガラスを使用。プランターでイチゴ・ネギ等を栽培し収穫して頂いている。	毎日のメニューは、利用者の生活歴や日常の会話の中から好みを聞き出し、可能な限り好みにあった食事作りを心掛けている。調理、盛りつけ等を職員と利用者が共に行い、同じテーブルで楽しく食事する家庭的な雰囲気が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立作成し個々の食事量の把握をしている。水分はこまめに提供し必要に応じて記録している。個々に応じ刻み食、ミキサー食、とろみ粉を使用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来ない方には職員が支援している。その他の方には声掛けや個々の力に応じた口腔ケアの支援を行っているが毎食後は出来ていない方も居られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できるよう個々の排泄パターンを把握し声掛け・誘導を行いその方の能力に応じ見守り介助を行っている。日中はほとんどの利用者をトイレ誘導し排泄をして頂くよう努めている。	全職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを、一覧表を作り把握している。あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った支援がされている。夜間は2時間ごとに巡回して、見守りと排泄介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトや果物を摂って頂いている。食事は野菜中心1日30品目を目標にしている。尚且つ便秘の方には牛乳を摂って頂いたり水分強化に努めている。運動、体操を取り入れご自分で出来ない方にはマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方には毎日入れるよう、また希望した時間帯に入浴して頂けるよう努めている。好みのシャンプーやリンス等があれば用意している。	入浴日は週3回を基本としているが、曜日は固定せずに何時でも入れるよう、一人ひとりの習慣やその日の体調の変化を配慮しながら、個々にそった支援をしている。入浴剤を使用し温泉気分が味わえ、楽しみなものになる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室やソファ、またリビングで自由に休息して頂き、夜間は居室の温度や寝具の状態、入眠状況の確認を行い安心して気持ちよく眠られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬についてほぼ理解しており個々の力に応じた服薬支援を行っている。症状の変化を確認し特に便秘薬は排便状況を把握し医師の指示のもと調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じ掃除や洗濯物干しやたたみ、食器拭き、食事用意などを手伝って頂いたり、散歩、外気浴、買い物で気分転換をして頂いたりしている。ジグソーパズルや百人一首等興味のあることに取り組んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添い外気浴や近隣の散歩でご近所の方と会話をされたり、買い物で本人の好きな物を選んで頂いている。概ね月1回の外食、年1回の美術センターの他、個別で希望される所へお連れしている。	日常的に、外気浴をしたり事業所の周りを散歩をして、釣り堀で釣りをしている人や農作業をしている近隣の方々と挨拶を交わしている。天王寺の美術館や八尾の大衆演劇を観に行ったりしたこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの方は少額の現金を持っておられ中には小遣い帳を付けている方もありますが基本的には金銭管理は職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は職員が取り次ぎ電話をかけて頂いている。ご自分で書いた手紙を出されたり、届いた年賀状は壁に掲示させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	金魚の水槽、花を飾る、自然の風を取り込み季節を感じる工夫をしている。リビングは天窓からの採光で明るく、床暖房完備。施設内清潔保持を心掛けている。トイレ、浴室もエアコン導入し温度差解消に努め快適に過ごせるよう工夫。	リゾートホテルのロビーを思わせるような天窓のある明るく高い天井のダイニング兼リビングルーム、「笑う門には福来る」の書をはじめ、利用者の笑顔の写真がところ狭しと貼りめぐらされ、利用者や職員の笑い声が響き渡っている。プランターには、季節の野菜や果物が植えられていて一緒に育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやリクライニングチェアを置きその方の一番落ち着く場所、居心地のいい場所で思い思いに過ごして頂くように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し本人が使用していた家具等を持って来て頂いたり、本人が住み慣れていた部屋の雰囲気に近い家具の配置等の工夫をしている。また畳で生活されていた方には畳の居室で過ごして頂いている。	居室は出来るだけ今までの生活習慣に合わせられるように、細やかな配慮がされている。和室、洋室の選択が出来る。その上に、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることを理解し、その人に応じた行動を見守り安全に過ごせるよう工夫している。		